こどもの権利ワークショップ実施報告書

2026 Vol.02

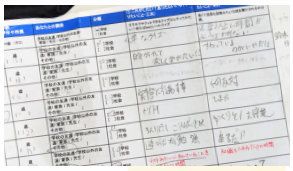
主催： 浜松市 こども若者政策課
運営受託者： 一般社団法人 こどもアドボカシーセンター浜松
協力：認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

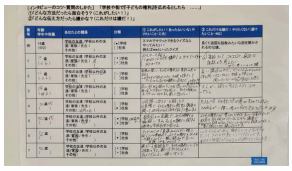
第2回ワークショップ 実施プログラムと当日の様子

実施概要

開催日時 令和8年（2026年）10月4日（日）13:30～15:30　参加数 22名（小・中学生13名、高校・大学生他9名）
開催場所 浜松市勤労福祉センター（アイミティ浜松） 2F会議室







プログラム①

オープニング ＆ 宿題の共有・振り返り

グラウンドルール「4つのC」を再確認し、安心・安全な場づくりを行ったうえでスタート。次回および11月15日「こどもの権利フォーラム2026」に向けたロードマップを全体で共有しました。
続いて、各自が持ち寄った「宿題シート（身近な人へのインタビューやアイデア）」をグループ内で発表・共有し、「友達や家族からどんな反応があったか」「どんな工夫を加えればおとなや周りにもっと伝わるか」について活発な意見交換が行われました。

プログラム②

アイデアの具体化

第1回で出たアイデアと宿題のインタビュー結果をもとに、グループごとにフォーラムで提案する「アイデア」に向け話し合いを行いました。
アクションプランシートを活用し、「だれに（ターゲット）」「どこで・何を使って（手法・場所）」「どんな工夫（仕掛け）」「おとなの協力が必要なこと」などの要素を5W1Hの視点で深掘り。キャッチコピーやイメージ図を作成し、具体的な提案へと仕立てていきました。















プログラム③

中間発表 ＆ グループ間フィードバック

各グループで練り上げたアクションプランを発表し合いました。
他のグループの参加者からは「ここが面白い！」「こうしたら学校でもやりやすそう」といった前向きな感想やアドバイスが付箋（コメントカード）で送られました。共感した意見には「いいね！シール」が貼られ、互いの視点を取り入れながらアイデアをさらにブラッシュアップする機会となりました。

プログラム④

宿題説明・フォーラム案内の確認

第3回に向け、自チームの提案について周りの友達・家族・先生に聴き取り、「周りの反響や応援データ」を集めてくる宿題ワークシートについて確認を行いました。
また、完成した「こどもの権利フォーラム2026」の告知チラシを参加者へ配付し、当日の役割（プレゼンター、受付案内、パネリスト等）への意気込みや当日のイメージを確認して終了しました。






アイデアの記録

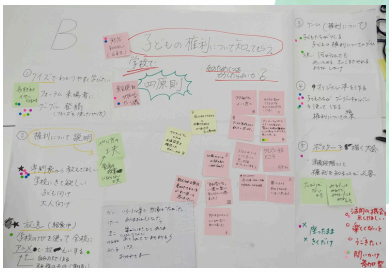
A：学校と地域をゲームや日常ツールでつなぐ



主なアイデア： 権利を学べるパズル・ゲームの作成、学校図書館に権利コーナー設置、朝の放送、地域向け回覧板など。

ポイント・ピックアップ： 「ゲームなら知らない人もやってみようと思える」「アンケートを作ってランキングを先生に見てもらう」など、日常の学校生活を中心に、みんなが楽しく納得できる参加型の仕組みが多数出ました。「これだけは嫌」も議論されました。

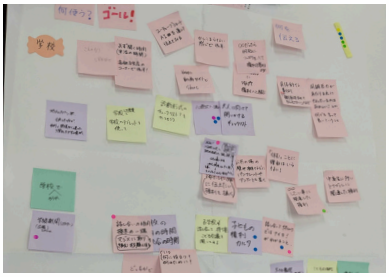
B:こども自身の手で創り、同世代へ届ける「参加型」



主なアイデア： 権利の四原則の周知、専門家による講演、Googleフォルダを活用したクイズ、こども自身が作る「権利ゲーム」「オリジナル絵本」、ポスター大会。

ポイント・ピックアップ： 「6年生の90%が権利を知らない」「座ったまま・きくだけはNG！動きたい！」という実態調査を踏まえ、「おとなから与えられるのではなく、自分たちの手でゲームや絵本を作り同世代へ伝える)」アプローチがまとめられました。

C:日常あるあると授業・公共の場を掛け合わせる



主なアイデア： 校内での「こども権利会議」、授業での活用、心理テスト風チェックリスト、駅やモールへのポスター掲示、YouTubeショート動画。

ポイント・ピックアップ： 「こどもの意見を最後まで聴いていますか？」「休むことに理由はいらない！」といったおとなへの問いかけや、「植物の育成（水や日光の違い）に例えて平等性や権利を表現する」というアイデアなど、多様で深い視点が光りました。

D:リアルな葛藤と共感の連鎖



主なアイデア： 市公式SNSを活用しハッシュタグでの意見募集、当事者による30秒動画、実体験に基づくモヤモヤエピソード発信。

ポイント・ピックアップ： 「『権利を主張すると義務を果たせと言われる』もどかしさを社会と一緒に悩みたい」「カタチばかりの難しい文章は嫌だ」という実体験に基づいた議論が白熱。「権利と義務はセットではない」という本質的なテーマが整理されました。

参加者の声・次回に向けて



小学生・中学生： 「自分では思いつかないアイデアがたくさん聴けて楽しかった！」「自分のアイデアにみんなが『いいね』と言ってくれて嬉しかった。」
高校生・若者世代： 「1回目は権利について議論するのが難しく感じたけれど、今回は自分の経験と権利が結びついてすごく身近に思えた。」「授業のおかげで（植物の）アイデアが出せたので、ここに来れて良かった。」
次回は、今回集めた周りの声を反映させながら発表内容を完成させ、「こどもの権利フォーラム2026」に向けたリハーサルと役割分担を行っていきます。